



みんながチャレンジ 明日に向かって 本気でGO！

本郷の輝き

横浜市立本郷小学校
学校学年便り 8,9月号
令和8年8月27日

横浜市栄区中野町16-1 電話 891-6813

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongo/>

「当たり前」にありがとうを

児童支援専任 脇園 啓一

長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに会う友達や先生との再会を楽しみにしていた人も多かったのではないのでしょうか。

今年の夏は、これまでにない暑さを感じる日が続きました。気象庁は今年、最高気温が40度以上となる日を表す「酷暑日」という言葉を初めて使いました。暑さ対策をしながら過ごすことの大切さを、改めて感じる夏となりました。また、熊本では大きな地震が発生し、千葉では大雨による浸水被害で、今も不安な思いを抱えながら生活されている方々がいます。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早く安心して暮らせる当たり前の日々が戻ることを願っています。

私自身、夏休み中に改めて「当たり前」の大切さを感じる出来事がありました。ある日の夜、落雷によって約3時間停電しました。私はキャンプが趣味で、自然の中で必要最低限の電気で過ごす時間を楽しむことがあります。そのため、電気のない生活には慣れているつもりでした。しかし、実際に家で停電を経験すると、冷蔵庫が止まり、トイレの水の流し方も分からず、暑い中をうちわで過ごす時間は、とても不便で辛いものでした。幸い、停電したのは夜の時間帯だったため、暑さの中で長時間過ごすことはありませんでした。しかし、熊本の地震で被害に遭われた方々の中には、水が出ない、炎天下の中でもクーラーが使えないなど、厳しい環境で生活された方もいらっしゃいました。その大変さを思うと、普段何気なく使っている電気や水、快適に過ごせる環境が、決して当たり前ではないことを強く感じます。

学校生活でも、教室で友達と学べること、先生の話聞けること、給食をみんなで食べられることなど、普段は「当たり前」と思っていることがたくさんあります。しかし、その一つ一つは決して当たり前ではなく、多くの人の支えや努力によってつくられているものです。

新しい学期の始まりに、ぜひ子どもたちにも考えてほしいことがあります。「当たり前」の反対の言葉は何でしょうか。答えは「ありがとう」です。毎日の生活の中にある小さな幸せや、支えてくれている人への感謝の気持ちを大切にしながら、実りある学校生活を送ってほしいと思います。